

主日礼拝

2020 年 10 月 4 日
午前 10 時 30 分

前奏

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。
喜び祝い、主に仕え 喜び歌って御前に進み出よ。」
(詩編 100:1-2)

頌栄 26「グロリア」

グロリア グロリア グロリア ちちとみ子に
グロリア グロリア グロリア せいなる霊に

使徒信条

我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。
我はその独り子、我らの主イエス・キリストを信ず。
主は聖霊によりてやどり、処女マリヤより生まれ、
ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架に
つけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に
死人のうちよりよみがへり、天に昇り、全能の父なる
神の右に坐したまへり、かしこより来たりて、生
ける者と死ねる者とを審きたまはん。
我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交は
り、罪の赦し、身体のよみがえり、永遠の命を信ず。
アーメン

祈祷

献金 献金箱が受付に置いてありますので、
礼拝前にお献げください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあがめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 ヨハネによる福音書 10: 31~42

新約(新共同訳) P187~P188

ユダヤ人たちは、イエスを石で打ち殺そうとして、
また石を取り上げた。すると、イエスは言われた。
「わたしは、父が与えてくださった多くの善い業
をあなたたちに示した。その中のどの業のために、
石で打ち殺そうとするのか。」
ユダヤ人たちは答えた。「善い業のことで、石で
打ち殺すのではない。神を冒瀆したからだ。あなた
は、人間なのに、自分を神としているからだ。」
そこで、イエスは言われた。「あなたたちの律法
に、『わたしは言う。あなたたちは神々である』
と書いてあるではないか。
神の言葉を受けた人たちが、『神々』と言われて
いる。そして、聖書が廢れることはありえない。
それなら、父から聖なる者とされて世に遣わされ
たわたしが、『わたしは神の子である』と言った
からとて、どうして『神を冒瀆している』と言う
のか。もし、わたしが父の業を行っていないので
あれば、わたしを信じなくてもよい。しかし、行
っているのであれば、わたしを信じなくても、そ
の業を信じなさい。そうすれば、父がわたしの内
におられ、わたしが父の内にいることを、あなた
たちは知り、また悟るだろう。」そこで、ユダヤ
人たちはまたイエスを捕らえようとしたが、イエ
スは彼らの手を逃れて、去って行かれた。
イエスは、再びヨルダンの向こう側、ヨハネが最
初に洗礼を授けていた所に行き、そこに滞在され
た。多くの人々がイエスのもとに来て言った。「ヨ
ハネは何のしるしも行わなかったが、彼がこの方
について話したことは、すべて本当だった。」そ
こでは、多くの人々がイエスを信じた。

賛美 436 「十字架の血に」

I hear Thy welcome voice
詞：Lewis Hartsough, 1828-1919

WELCOME VOICE
曲：Lewis Hartsough, 1828-1919

「十 - 字 架 の 血 に す く い あ れ ば、
き た れ」との こ え を わ れ は き け り。
(くりかえし)
主 よ、わ れ は い ま そ ゆ く、
十 字 架 の 血 に て き よ め た ま え。

1. 「十字架の血に 救いあれば、
来たれ」との声を われはきけり。
主よ、われは いまそゆく、
十字架の血にて きよめたまえ。
2. よわきわれも みちからを得、
この身の汚れを みな拭われん。
主よ、われは いまそゆく、
十字架の血にて きよめたまえ。
3. まごころもて せつにいのる。
心に満つるは 主のみめぐみ。
主よ、われは いまそゆく、
十字架の血にて きよめたまえ。
4. ほむべきかな わが主の愛、
ああ、ほむべきかな わが主の愛。
主よ、われは いまそゆく、
十字架の血にて きよめたまえ。

説教 「信じ、悟るとは」

聖餐式 牧師のみ

賛美 360 「人の目には」

Immortal, invisible
詞：W. Chalmers Smith, 1824-1908

ST. DENIO (JOANNA)
曲：ウェールズ民謡

1 ひ と の 目 に は か く さ れ た、
2 か み の わ ぎ は や す み な く、
3 ど ん な ち い さ な い の ち に も、
4 ひ と の 目 に は ま ぶ し く て、
た だ ひ と り の 生 け る か み。
お と も た て ず す す ら み ゆ く。
か み は は な を ひ ら か せ る。
も は や ど ら え き れ ぬ ほ ど、
せ ん の う な る 主 の み 名 を、
そ の せ い な ぎ は そ び え た ち、
く さ は す べ て し お れ て も、
て ん の か み の み さ か え は、
た た え う た え、 こ え あ わ せ。
そ の め ぐ み は は か と ぎ あり な い。
主 の こ と ば は と こ し え に。
ひ か り は な ち 世 を て ら す。

派遣

司式者 主は言われます。
「わたしは誰を遣わすべきか。」
会衆 わたしがここにいます。
わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏

司式 福原 之織
説教 向井 希夫牧師
奏楽 大代 恵
助餐 袁 紅 (準備・片付け)